

## 意見交換会で出された意見の抜粋

- 山梨の地域活性化には、女性の活躍が残されている数少ない伸びしろ。今はそのための投資がより必要。地域に共同参画の灯を消してしまうことは、コストと見合うことではない。拠点があることによって各地域への政策の影響力を高めるのはごく一般的な戦略。  
2館を廃止すれば、山梨県及び長崎知事が男女共同参画を推進する気がないというメッセージが発信される。  
男女共同参画はすぐに成果が出るようなジャンルではないが、土壌づくりを日頃より行っていないと、変化や効果は決して現れず、参画について遅れた地域というポジションから脱出できなければ、山梨への移住定住についても大きく足を引っ張ることになる。(30代 男性)
- 男女共同参画は教育や文化の一部。お金も手間もかかるもの。それを育ててこそ山梨の真の豊かさが計れる。予算が足りないと言って削減することはしてはいけない。世界中でジェンダー平等が問題視されている中、今何を守り育て、何を削減すべきかをもう一度考えるべき。(60代 女性)  
\* こういう趣旨の意見はたくさん出された。
- 峡南も、郡内も、甲府まで来るには時間がかかる。拠点は、単に講座を聞くだけでなく、いろんな方が集まってきて交流する、その中で学び合う、気づき合う、それが行動につなげられるということで、必要。郡内はまだ旧態依然とした考えがとても強い。女性だけが学んで意識が変わればいいのではなく、男性もともに学んで変わっていかなければ、地域は変わらない。身近なところで、学べる、交流し合える場がどうしても必要。  
ぴゅあ富士を拠点に、若いお母さん方が素晴らしい活動をしている団体があるが、せっかく動いているのに、その拠点を取り上げることはしてほしくない。(70代 女性)
- 男女共同参画というような、根底が人々の考えや、地域に長くあるいろいろなしがらみのようなものを変えていく活動は、人の中に細かく入り込まないと絶対に無理。  
自分は住民主体型活動、参加型活動によって、地域を変えていくことに取り組んできたが、集約をしてしまったら、それができない。  
地域に拠点があり、その人材とつながり、そういうネットワークがある中で、人変える動き、地域をいい方向に作っていく働きは、そこに住んでいる人々の発想の中で出てくるものだから、集約したら実現できない。(40代 女性)
- 推進センターの講座で学んで、現在子育てをしながら、大人が子どもたちにできることは何かと考えてグループ活動をしています。活動するために時間も資金も少ない中、推進センターという学びと出会いの場が近くにあり、踏み出した後に孤軍奮闘で燃え尽きないような頼れる場所が身近にあることは、地域の未来にとって必要です。民間の取り組みと行政の後押しが結びつけば、より早くより多くの人に支援が届きます。今の利用人数で判断して集約というのではなく、未来の山梨に暮らす人たちを取り巻く環境がどうあって欲しいか、そのためにどういう施設・機能・つながりが必要かを元に考えてください。無くすことは簡単ですが、一度無くしたものを取り戻すことは困難です。十分に時間をかけて判断をお願いします。(30代 女性)